

森林吸収源インベントリ情報整備事業地域講習会・関東ブロック

日時：2015年7月27日（月） 晴れ

場所：栃木県茂木町（調査地点コード 090390）

講師：大貫靖浩・平井敬三・阪田匡司・釣田竜也

○概要

関東ブロックを担当するクリタスの7名を対象に実施した。天気恵まれたが、連日の猛暑で朝から高温だった。

9時に集合し、参加者全員で自己紹介をした後、調査地点に移動した。事前に杭の位置を確認していなかったことに加えて、前回調査と位置が変わっていたようで、中心杭の確認に手間取った。調査地はコナラを主とする落葉広葉樹林であった。

9時20分に概況・ライン調査を開始した。北と南の杭が斜面下方に転がり落ちていたので、中心杭および東西ラインとの位置関係から、地点を正確に確定し、仮杭を設置した。未経験者2名が担当したライン張りは、直線で杭間を結ぶのに手間取ったが、経験者が実施した野帳記載はスムーズであった。

枯死木調査から東西と南北のライン別に2班に別れて実施した。2班とも根株は無かったが、倒木と立枯木はあり、測定ポイントを講師が説明した。なお広葉樹は根株から萌芽することが多いので、その場合は根株としてカウントしないよう指導した。

堆積有機物と土壌炭素蓄積量調査は各班とも1地点目を経験者が、2地点目を未経験者が主に担当した。北、西、東地点は石礫が非常に少なく断面整形や試料採取は容易であった。断面作成の際、予定断面の手前から掘り始めること、必ず垂直に整形すること、折尺を必ず垂直に設置するように指示した。整形の際、残す根の長さについて質問があり、2 cm程度残ように指導した。また写真は真横からフラッシュの有無2通りで撮影することを伝えた。石礫率は用意したパウチ資料を参考に判定したが、受講生は土色帖に比べてわかりやすいという感想だった。なお南地点は他より石礫が多く、45°の急斜面なため断面整形に時間を要した。

堆積有機物層と鉱質土壌の境界判断や堆積有機物採取終了の判断は難しいので、手で触り土壌と有機物の違いを必ず確認するように指導した。化学分析用土壌試料と定体積試料の採取を層位毎に交互に位置を変えて実施すること、化学性試料採取

に用いるバットの長辺方向を断面に平行に設置できるように整形することが効率的と説明した。未経験者は剪定バサミの持ち方が正確でなかったため、講師が見本を示して正しい使用法を指導した。また採取量が常に多くなりがちとの説明があったため、採取試料を全量調整するので分析委託業者の作業量が増えるため、採取量は規定量に近くとするよう指導した。

今回の土壌断面は石礫が相対的に少なく、定体積試料は全て採土円筒で採取できたが、手元を広く整形すると作業効率が上がること、円筒から常に手を離さず無理に押し込まないこと、円筒のすぐ周囲では無くやや余裕ある位置でコテやはさみを使用すること等、留意点を説明した。各地点での調査終了時には野帳と試料の確認を行い、漏れがあった項目について直ちに修正するよう指導した。

全ての調査を 16 時 35 分に終え、集合場所に帰った後講評を行い 17 時に解散した。講習により調査手順が確認されるとともに、未経験者には調査の意味とポイントが理解でき、調査開始にあたって効果的な講習会であった。



ライン調査



堆積有機物採取



堆積有機物、土壌炭素蓄積量調査



調査終了後の講習会講評